

南九州市におけるイセエビ増殖試験

南薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

南九州市においては、イセエビ刺網漁業が盛んであり、毎年9月には南九州市石垣漁港において南九州市水産振興会主催により「イセエビ即売会」を開催するなど、イセエビが地域の特産となっている。

鹿児島県におけるイセエビ漁獲量は平成元年の718トンピークに減少傾向にあり、平成28年の漁獲量は50トン（農林水産統計年報調べ）まで落ち込み、南九州市管内においても漁獲量が減少傾向にある。

そこで、南九州市水産振興会が行うイセエビの幼生・稚エビの着底率向上による資源増殖の取組を支援した。

【普及の内容・特徴】

増殖試験は南九州市や一般企業と連携しながら、南九州市水産振興会が事業主体として全国豊かな海づくり推進協会の豊かな海づくり実践活動推進事業を活用して取り組んだ。

試験ではアイン株式会社総合研究所（岐阜市）とシーホースウェイズ株式会社（南九州市）より無償提供のあった網状構造体を活用し、網状構造体に稚エビの蝸集効果があるか試験を行った。

【成果・活用】

1 網状構造体の稚エビ蝸集効果試験

イセエビ幼生が漂着してくる時期を狙い、6月中旬に南九州市管内4地区（松ヶ浦、大川、番所鼻、石垣）の地先海域に網状構造体を計10基設置し、8月上旬まで定期的に稚エビの蝸集効果調査を行った。

また網状構造体との比較試験として、市販の稚エビコレクター（以下、市販コレクター）1基を松ヶ浦地先海域に設置し、網状構造体と同様に8月上旬まで定期的に調査を行った。

調査の結果、設置期間中に網状構造体では1基あたり平均0.19個体の稚エビが確認されたのに対し、市販コレクターでは平均9.33個体の稚エビが確認され、市販コレクターの蝸集効果が網状構造体よりも高いことが示唆された。

2 先進地視察研修

平成29年11月1・2日に、イセエビ増殖に係る技術習得のために宮崎県水産試験場と南郷漁業協同組合にて視察研修を行った。

宮崎県水産試験場では、平成25・26年度に試験が行われたイセエビ稚エビの着底率の向上方法について説明を受け、杉葉が市販コレクターと同様に稚エビの着底率の向上に寄与する可能性が示唆されたとのことであった。

また、南郷漁業協同組合では、漁協で取り組んでいるイセエビ増殖の取組について説明を受けた。

3 今後の計画

次年度は、宮崎県水産試験場での研修をもとに、杉葉を使ったコレクターの稚エビ蝸集効果調査を実施していく予定である。



図1 網状構造体

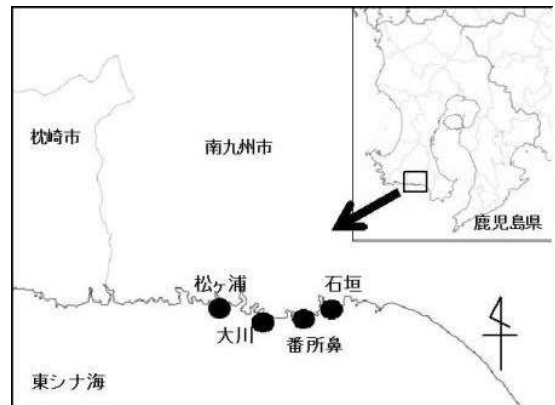


図2 設置箇所

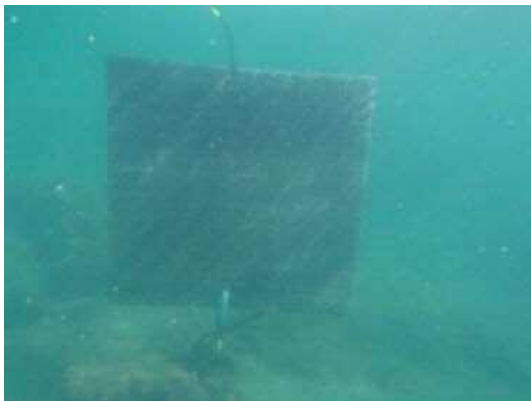


図3 設置状況



図4 市販コレクター



図5 稚エビ蛄集効果調査



図6 採捕された稚エビ



図7 視察研修(宮崎県水産試験場)



図8 視察研修(南郷漁協)